

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	生育期間が長いので 完熟堆肥 の投入を！ 目標収量 9t/10a												
栽培体系	<p>は 種 接ぎ木 定植</p> <p>台木 穂木・台木 ホルモン 整枝・誘因</p> <p>ト 耐 処理開始 開始</p> <p>ル 病</p> <p>バ V &lt; 幼苗接ぎ木 &gt;</p> <p>ム F</p> <p style="text-align: center;">&lt; 養生装置 &gt;</p> <p style="text-align: center;">自根苗穂木は種</p>												<p>・種子量</p> <p>穂木 20ml/10a(2,000~2,400粒)</p> <p>台木 耐病VF 20ml/10a(2,000~2,400)</p> <p>トバムバガ 5ml/10a(2,000粒)</p> <p>&lt; 栽培上の留意点 &gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>施肥例(10a当たり)：基肥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>完熟堆肥</td> <td>5 t</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>120 kg</td> </tr> <tr> <td>苦土重焼燐</td> <td>50 kg</td> </tr> <tr> <td>ロング 424M100 (14-12-14)</td> <td>180 kg</td> </tr> <tr> <td>燐硝安加里 S604</td> <td>35 kg</td> </tr> </table>	施肥例(10a当たり)：基肥		完熟堆肥	5 t	苦土石灰	120 kg	苦土重焼燐	50 kg	ロング 424M100 (14-12-14)	180 kg	燐硝安加里 S604	35 kg
	施肥例(10a当たり)：基肥																								
完熟堆肥	5 t																								
苦土石灰	120 kg																								
苦土重焼燐	50 kg																								
ロング 424M100 (14-12-14)	180 kg																								
燐硝安加里 S604	35 kg																								
病害虫	<p>灰色カビ病菌核病</p> <p>アブラムシ ハダニ</p> <p>1. なすは「水」が大好きです。水分管理に 充分注意します。</p> <p>2. 生育適温は、日中27~28 ・夜間18~20 。</p> <p>3. 根の生育適温は、日中24~25 ・夜間20 。</p> <p>4. 収穫が進むと株の内側が混んで日当たりが不良となるため、古葉の摘除と内側のふところ枝を間引く。また、7月25日頃に更新剪定する。</p> <p>5. 「なす」は連作を嫌うため、3~4年の輪作を行う。また、土壌病害が発生しやすいため、抵抗性台木に接ぎ木する。</p>																								

1.ほ場準備  
なすは土壌適応性の幅が広いが、乾燥に弱く、多肥を好む作物です。排水が良く保水力がある有機質に富む耕土の深い土壌が適する。

深根性で楕型旺盛な根系を形成するので深耕し、排水対策(明渠の設置・サブソイルによる耕盤破壊等)を十分行う。

強酸性土壌では不適なので、PHを6.8～7.3を目標とする。

2.育苗  
品種 穂木：式部(渡辺採種場)

台木：トハビガ-：半枯病・半身萎凋病・ネブセンチュウ、耐病VF：半枯病 穂木  
微温湯(20～25℃)1昼夜浸し催芽。

育苗箱に、条間6cmに1～2cm間隔で播種発芽後、葉が触れ合わないよう、間引きし、最終株間を2cm程度にする。

温度管理	地温	昼温	夜温
発芽まで	30	30	20
発芽後	20	25	18～20

台木は種耐病VFは、穂木と同時播き。

トハビガ-は、穂木より15～20日早く播くが、ジベレリン100ppmに24時間浸漬する。播種後、20～16時間・30～8時間を繰り返す変温管理をし、発芽を促進させる。発芽後は葉が触れ合わない程度に間引きし播種2週間後本葉が見えたら72穴トレイに移植(用土は園芸培土とピートスを当量混合)

3.接ぎ木  
台木・穂木が2.5葉に行う。  
(幼苗接ぎ木：上記参照)

接ぎ木後は、苗をトレイのまま床内に入れトンネル密閉し、4日間養生する。(養生中の病害発生を防止するため、接ぎ木前の防除を徹底する。(養生装置：上記参照)

順化 養生終了後、根鉢のまわったものから順次12cmポットに鉢上げし、通常の管理を行う。その後苗が大きくなりしだい、地温を少しずつ下げ、適宜鉢づらしを行い定植10日位前から行う。

4.定植  
畝間2.7m(3間ハウス2ベッド)、株間55～65cm。

透明ポリマルチ(厚さ0.03mm)を使用し、定植時に地温15℃以上を確保する。

本葉7～8葉、第1花開花始期に定植。定植後1か月間は、大きめのトンネルで2重被覆する。夜間はホカホカマット等で被覆し保温する。

5.定植後の管理  
整枝 側枝が4～5cm伸びたら、主枝と第1花の下の側枝2本を伸ばし、残りの側枝は摘除して3本仕立てとする。

トンネル開閉 トンネル内気温を30℃以内を目標に管理し、夕方は早めに閉め保温する  
ホルモン処理 着果促進のため、トトソ50倍液を開花当日処理する。開花初期は単

花処理するが樹が繁茂したら全面処理する。  
追肥 生育初期の窒素の効きすぎは過繁茂・落花・石なすの原因になるので控えるが、草勢等が低下したら、液肥で窒素成分2kg/10aを追肥する。

樹勢診断

6.誘引・その他管理  
トンネル除去後は、下図のようにヒモ等で誘引

摘葉・摘枝 老化した下葉、混んだふところ枝は適宜除去し、通風や採光を良くする。

更新剪定 真夏は露地物が多く出回り、樹勢が低下するので、7月25日頃に良葉1～2枚残し切り落とす。

カーテン張り 9月下旬に設置して夜温を確保し、10月以降まで収穫を延長する。

7.病虫害防除  
半身萎凋病・半枯病・青枯病 対策：台木に接ぎ木

褐紋病 褐色円形の病斑が果実表面に発生し、湿気があれば白いカビが密生する。

対策：排水対策の徹底・ドゥーゼット500倍

灰色かび病 対策：ダニールFD500倍・ユーパレン水和剤800倍・ロフラル水和剤1,500倍

菌核病 対策：ベンレート水和剤2,000倍・ロフラル水和剤1,000倍

アブラムシ 対策：アドマイヤー1粒剤1～2g/株・DDVP乳剤751,500倍・アリマト乳剤1,000倍・マブリック水和剤4,000倍

ハダニ 対策：イカール乳剤451,500倍・オザン水和剤1,000倍・モスタク水和剤2,000倍・オナック乳剤1,000倍をローテーションする。